

< 馬の改良増殖、保護利用増進及び馬事知識の普及事業（公益目的事業） >

第1 一般会計予算事業

1 登録事業

登録事業は、公益社団法人日本馬事協会登録規程、同事務細則及び個体識別証明実施要領に基づき、北海道において輓系馬、乗系馬及び小格馬、岩手県において輓系馬及び乗系馬、青森、島根、熊本、宮崎の各県において輓系馬、その他の地域において乗系馬を主体に、血統登録、繁殖登録及び個体識別証明（以下「登録等」という。）を行った。

(1) 登録事務の推進

登録等の適正かつ円滑な実施を図るため、当協会の本部及び北海道事務所に技術者及び事務員を配置するとともに関係団体等の協力を得て登録等を行った。

ア 登録審査委員の委嘱

登録審査委員は、人事異動等に応じ、当協会役職員、学識経験者、関係団体の職員のうちから適任者（7名）を新たに委嘱した（令和6年3月末現在68名）。

イ 登録実務者研究会等の開催

登録審査委員の技術向上等を図るため、1月12日に登録審査委員を対象として登録実務者研究会（参加者12名）をWEBにて開催し、また、4月24日に登録審査補助員等を対象として登録審査講習会（参加者19名）を独立行政法人家畜改良センター十勝牧場（以下「十勝牧場」という。）で開催した。

(2) 登録等の審査

登録等の申込みのあった馬について、関係書類及び実馬を審査して登録等を行った。また、登録において疑義等があった馬に対し、毛色の遺伝子検査（34頭）及びDNA型検査（重種雄馬36頭、親子判別46頭、その他23頭）を実施した。

登録等の実施状況

(単位:頭)

区分	輓系馬	乗系馬	小格馬	在来馬	計
血統登録	1,104	222	160	130	1,616
繁殖登録	309	58	42	41	450
個体識別証明	-	44	31	-	75
計	1,413	324	233	171	2,141

(3) 登録証明書等の交付

血統登録証明書、繁殖登録証明書及び個体識別証明書を交付するとともに、登録情報を登録名簿に登載した。

(4) 登録事務の整備

電算機を利用して登録情報等の集積・管理・提供を行い、関係団体に提供するとともに、登録情報を「馬関連団体情報システム」により当協会ホームページで開示した。また、登録情報等をスマートフォンで閲覧できるようシステムの改修を行った。

(5) 登録業務の普及啓発

登録申請等の簡便化や各種馬事知識の普及啓発を図るため、登録関係及び馬事関係の情報を逐次更新し、当協会ホームページで発信した。

2 乗用馬等の生産育成振興事業

(1) 乗用馬の生産育成促進指導

ア 乗用馬生産育成技術検討会の開催等

北海道地区及び岩手県地区の乗用馬生産農家の組織強化と乗用馬生産基盤を強化するため、乗用馬生産育成技術検討会を以下のとおり開催した。

- ・北海道地区 ホクレン釧路地区家畜市場（9月26日）
- ・岩手県地区 一般社団法人遠野市畜産振興公社（10月17日）

また、乗用馬生産地で開催される乗用馬市場の開催に際し、当協会職員を派遣して上場馬の調教等に協力するとともに、せり名簿作成経費の一部を根釧乗用馬生産育成振興会及び遠野市乗用馬生産組合に助成した。

イ 乗用馬補充対策（協会所有馬）

(ア) 内国産乗用馬の資質向上を図るため、一般社団法人遠野市畜産振興公社から乗用雄馬1頭（日本スポーツホース種（1歳））を購入した。

(イ) 内国産乗用馬の資質向上を図るため、ドイツから乗用雌馬2頭を購入し、乗用馬生産地に種雌馬として貸付けた。

品 種	馬 名 (馬 齢)	貸 付 先
ホルスタイン種	ノブレスKL (3歳)	遠野市畜産振興公社
	ミラAH (4歳)	

注：馬齢は購買時

(ウ) 日本中央競馬会から乗用雌馬3頭の寄贈を受けて、乗用馬生産地に種雌馬として貸付けた。

品 種	馬 名 (馬 齢)	貸 付 先
日本スポーツホース種	ザビューティ (11歳)	東北海道馬協議会
オルデンプルグ種	チリーブルー (14歳)	根釧乗用馬生産育成振興会
ベルギー温血種	ピレットスパーティ (8歳)	

注：馬齢は寄贈時

ウ 乗用馬の登録

乗用馬の改良に資するため、登録等の申込みのあった乗用馬について、関係書類及び実馬の審査等を実施し、登録証明書又は個体識別証明書を交付した。

(2) 日本在来馬の保存活用推進

ア 保存活用推進会議の開催

日本在来馬の保存活用に係る各馬種団体の保存活動及び利活用等について意見交換し、諸課題の検討及び今後の日本在来馬保存の在り方について広く議論を行うため、各馬種保存会及び関連団体などを参集して連絡会議（全国会議）を8月25

日に長崎県対馬市で開催した。

イ 日本在来馬の保存登録

日本在来馬の保存のため、北海道和種（血統登録：119頭、繁殖登録：33頭）、木曾馬（血統登録：4頭、繁殖登録：6頭）、対州馬（血統登録：1頭）、野間馬（血統登録：6頭、繁殖登録：2頭）の登録を行った。

また、登録に際してDNA型検査（56頭）を実施した。

3 重種馬等の生産振興対策事業

(1) 重種馬の整備

重種馬の資質向上と増産を図るため、優良な種雄馬及び種雌馬を購入・借受け、重種馬の主要生産地へ配置・貸付けを行うとともに、凍結精液を製造して農業団体等に配付した。

ア 内国産種雄馬の配置（独立行政法人家畜改良センター所有馬）

十勝牧場で生産育成された種雄馬5頭（ペルシュロン種2頭、ブルトン種3頭）を借受け、重種馬生産地に配置した。

(単位：頭)

品 種	北海道	青 森	岩 手	島 根	熊 本	宮 崎	合 計
ペルシュロン種			1		1		2
ブルトン種	1			1	1		3
合 計	1		1	1	2		5

品 種	馬名 (馬 齢)	配 置 先
ペルシュロン種	ケツ 潔 エン 円 (2歳)	盛岡畜産農業協同組合
	コウ 功 メイ 明 (2歳)	熊本県畜産農業協同組合
ブルトン種	シュウ 柊 コウ 公 (2歳)	ホクレン苫小牧支所
	シュウ 柊 ボウ 望 (2歳)	熊本県畜産農業協同組合
	ヨウ 曜 コウ 光 (2歳)	島根県農業協同組合隠岐どうぜん地区本部

注：馬齢は借受時

イ 内国産種雄馬の配置（協会所有馬）

ばんえい競馬で優秀な成績を残した競走馬の中から雄馬1頭を選定・購買し、北海道の重種馬生産地に種雄馬として配置した。

品 種	馬 名 (馬 齢)	配 置 先
日本輓系種	オレノタイショウ (8歳)	釧路農業協同組合連合会

注：馬齢は購買時

ウ 内国産種雌馬の貸付（協会所有馬）

ばんえい競馬の競走馬の中から雌馬 8 頭を選定・購買し、北海道の重種馬生産地に種雌馬として貸付けた。

（単位：頭）

品 種	十 勝	釧 路	根 室	上 川	苫小牧	岩見沢	合 計
日本輓系種	2	2	1	1	1	1	8

品 種	馬 名 (馬 齡)	貸 付 先
日本輓系種	コウシローレディ (6 歳)	十勝農業協同組合連合会
	ペガサスプリティアー (6 歳)	
	コウシュハグラマー (6 歳)	釧路農業協同組合連合会
	アオノマーキース (5 歳)	
	アオノエポナ (5 歳)	根室生産農業協同組合連合会
	ベニサクラ (4 歳)	上川生産農業協同組合連合会
	アアモンドアイドル (4 歳)	ホクレン苫小牧支所
	ヒメトラエトランゼ (5 歳)	ホクレン岩見沢支所

注：馬齢は購買時

エ 凍結精液の配付等

(ア) 凍結精液の配付

一般社団法人遠野市畜産振興公社に委託して製造・保管している凍結精液（日本輓系種：オーシャンスター及びバウンティハンター）を農業団体等（1 団体）に配付した。

地 区	配 付 先	配付本数
北海道	足寄町農業協同組合	100 本

(2) 重種馬の生産推進

ア 重種種雄馬の適正配置

(ア) 種雄馬配置協議会の開催

独立行政法人家畜改良センターから借受けた種雄馬の適正配置を図るため、配置希望団体を参集して、7 月 19 日に十勝牧場で種雄馬配置協議会を開催し、借受けた種雄馬（5 頭）の配置先を決定した。

(イ) 種雄馬及び種雌馬の管理指導

① 配置種雄馬及び貸付種雌馬を適正に管理するため、飼養管理場所に当協会又は事務委託先等の職員とともに十勝牧場の職員を派遣し、飼養管理状況の把握とともに管理指導を行った。

② 交配種雄馬の選定等の参考に資するため、協会所有、独立行政法人家畜改良センター所有及び民間所有の種雄馬（令和 5 年度の種畜検査合格馬）名簿を作

成・印刷（600部）し、関係団体等に配付した。

- ③ 配置種雄馬（桜髪：馬類肉腫）及び貸付種雌馬（アアモンドヒロイン：卵胞血腫）の繁殖障害等に対し、高度医療提供機関（帯広畜産大学）への輸送費及び治療費を補助した。

イ 重種馬の生産振興

（ア）重種馬の生産技術の指導

重種馬の飼養管理技術を向上させるため、飼養者を対象に技術指導及び飼養者講習会等を行った農業団体（7団体）に指導奨励金を交付した。

地 区	交 付 先
北海道	十勝農業協同組合連合会
	釧路農業協同組合連合会
	根室生産農業協同組合連合会
	上川生産農業協同組合連合会
岩手県	一般社団法人岩手県馬事振興会
島根県	島根県農業協同組合隠岐どうぜん地区本部
宮崎県	都城農業協同組合

（イ）研修会等の開催

① 馬事技術者養成講習会

馬事技術者の養成を図るため、農協及び行政機関等の職員を対象として、5月23日～25日に地方競馬全国協会の地方競馬教養センターで馬事技術者養成講習会（参加者13名）を開催した。

② 馬事技術指導者研修会

馬事技術指導者の更なる技術の向上を図るため、関係機関等の職員を対象として、8月31日に十勝牧場で馬事技術指導者研修会（参加者16名）を開催した。

③ 馬診療技術研修会

生産現場における馬診療獣医師の技術向上を図り、重種馬の生産性向上に資するため、重種馬等の診療に携わる獣医師等を対象として、8月18日～8月21日に帯広畜産大学で馬診療技術研修会（参加者24名）を開催した。また、1月20日～1月31日に地方競馬全国協会の地方競馬教養センターで開催された全国公営競馬獣医師協会主催の獣医師生涯研修会に研修生（2名）を派遣した。

④ 生産技術研修会

重種馬生産技術の向上を図るため、北海道地区における重種馬生産者等を対象として、11月17日に札幌市内で生産技術研修会（参加者99名）を開催した。

⑤ 削蹄技術講習会

重種馬の護蹄管理を中心とした削蹄技術の向上を図るため、重種馬飼養者

等を対象として、10月23日に北海道上川地区において削蹄技術講習会（参加者14名）を開催した。

⑥ 馬の担い手養成研修会

重種馬生産の担い手を養成するため、重種馬生産者等を対象として、第1回を5月26日（参加者12名）に、第2回を9月4日（参加者14名）、第3回を10月10日（参加者9名）に十勝牧場で馬の担い手養成研修会を開催した。

⑦ 馬事普及セミナー

重種馬生産の業界に携わる新規参入者を確保するため、重種馬に興味を持っている一般市民等を対象として、8月13日に帯広競馬場内で馬事普及セミナー「重種馬の魅力」を開催するとともに、11月3日に熊本市内で馬事普及セミナー「重種馬の魅力を考えるシンポジウム」（参加者33名）を開催した。

⑧ ビデオ講座

重種馬生産者等に対して、馬の生産・繁殖技術の正しい知識を発信するとともに、馬の人工授精技術の普及を図るため、馬の生産・繁殖技術に関する解説動画（「馬の繁殖と発情の見極め」及び「人工授精の手順」）を制作した。

4 馬事普及啓発推進事業

(1) 馬事普及特別対策事業

ア イベント活性化促進推進

畜産関係団体等（4団体）が開催するイベント等に対し、その経費を補助した。

地 区	交 付 先
北海道	釧路農業協同組合連合会
	釧路馬事振興連合会青年部会
	北海道輓用馬振興対策協議会
	NPO 法人とかち馬文化を支える会

イ 生産技術研修

農協、農協連及び重種馬生産地域の生産集団等（7団体）が行う生産技術研修（重種馬集団繁殖検診研修等）に対し、その経費を補助した。

地 区	交 付 先
北海道	十勝農業協同組合連合会
	釧路農業協同組合連合会
	釧路馬事振興連合会青年部会
	上川馬事振興会
島根県	島根県農業協同組合隠岐どうぜん地区本部
熊本県	熊本県畜産農業協同組合連合会
宮崎県	都城農業協同組合

ウ 調査研究

農協、農協連及び重種馬生産地域の生産集団等（1団体）が行う生産技術調査・研究に対し、その経費を補助した。

地 区	交 付 先
北海道	十勝農業協同組合連合会

エ 共進会等推進

農協、農協連及び重種馬生産地域の生産集団等（4団体）が行う共進会等に対して、その経費を補助した。

地 区	交 付 先
北海道	十勝馬事振興会
	釧路農業協同組合連合会
	根室馬事振興協議会
熊本県	熊本県畜産農業協同組合

オ 全道共進会支援

北海道総合畜産共進会（馬部門）の開催に対して、その経費を補助した。

地 区	交 付 先
北海道	北海道総合畜産共進会実行委員会

(2) 馬事思想普及教材配付事業

馬事思想の普及向上を図るため、馬への関心や親しみを広く一般の人々に持ってもらうための普及啓発用教材（馬のいろいろパート1～パート5）を申請のあった延べ17団体に対して合計9,573部を配付した。

(3) 優良重種馬学術調査事業

重種馬の生産技術の向上及び改良増殖推進に資するため、以下の大学と共同で学術調査を行った。

ア 運動能力力学に関する調査研究（山口大学との共同研究）

ばんえい競走馬の牽引能力に係る運動メカニズムの解明のための学術調査を実施した。

イ B L U P法による馬能力検定に関する調査（京都大学との共同研究）

ばんえい競走馬及び十勝牧場の重種馬の体型測尺値、線形審査データ、ばんえい競馬能力検査成績及び産肉成績をもとに、B L U P法アニマルモデルを用いた馬の能力検定に係る評価結果を検証するための学術調査を実施した。

ウ 呼吸器疾患に関する調査研究（帯広畜産大学との共同研究）

ばんえい競走馬等を対象とした呼吸器疾患に対する馬診療専用のビデオ内視鏡システムを用いた実態調査及びデジタルX線撮影装置によるフィールドでの実態調査を実施した。

エ 重種馬の受精卵移植技術に関する調査研究報告会の開催

馬の受精卵移植技術を普及するため、十勝牧場で繋養されている重種馬による受精卵移植を実施し、11月9日にWEBによる調査研究報告会を開催した。

(4) 馬パラチフス清浄化対策事業

馬パラチフス清浄化に向けた実施方針等について、10月24日及び2月26日、札幌市内で馬パラチフス清浄化対策推進委員会を開催するとともに、2月1日に北海道庁から発出された「令和5年度北海道における馬パラチフスの防疫方針について」を受け、軽種馬を除く流産馬の病性検定に係る経費を補助した。

(5) 重種馬利活用促進

ばんえい競走馬の引退後の利活用について検討を行うため、3月1日にWEBにてエヌボン種馬所の所長（アンドリュー・アルトゥーロ氏）による「フランスにおける重種馬の活用について」の講演を行い、意見交換を行った。

(6) 優良重種馬生産者表彰事業

重種馬の生産意欲を喚起するため、重種馬生産の指標となっている、ばんえい競馬の2競走（黒ユリ賞（3歳牝馬限定：BG2）、イレネー記念（3歳限定：BG1））の出走馬の生産者（延べ20名）を優良重種馬生産者として、また、農業団体等からの推薦を受け、長年にわたり産駒を生産（15産以上）した繁殖雌馬（5頭）を優良重種馬（多産馬部門）として表彰し、3月17日に帯広市内で表彰式典を開催した。

(7) 重種馬生産地懇談会

重種馬生産者との意見交換及び現地調査を行い、重種馬生産の実態等を把握するため、重種馬生産地（4地区）で重種馬生産者・農業団体・関係機関による地域懇談会を開催した。

- ・上川地区 旭川市（7月27日～28日）
- ・十勝地区 帯広市（7月13日～15日）
- ・岩手地区 滝沢市（7月24日～25日）
- ・宮崎地区 都城市（1月29日～30日）

(8) 重種馬等生産振興推進会議

ア ブロック会議

地域の実態に即した重種馬の生産振興策を検討するため、重種馬等生産振興ブロック会議を以下のとおり開催した。

- ・北海道ブロック WEB 会議(10月18日、2月9日)
- ・東日本及び西日本ブロック WEB 会議(1月25日)

5 馬事振興に関する検討会の開催

協会が登録する馬の品種呼称について、国際的な観点から検討を行うため、学識経験者等を招聘し、座談会を3回（第1回：4月13日、第2回：6月27日、第3回：11月21日）開催して意見交換を行った。

6 食肉処理施設調査事業

馬の処理実績がある国内食肉処理施設（12 か所）に対し、引き続き、馬の食肉利用の実態把握等の調査を行った。

7 馬の輸入精液証明書発給等事業

公益社団法人日本馬事協会馬輸入精液証明書発給規程に基づき、仏国から輸入された馬凍結精液に対して、ストロー1本ごとに日本国内向け精液証明書（合計90通）を発給するとともに、これに関連する業務を行った。

8 褒賞事業

重種馬等の生産振興を図るため、生産地で開催された馬の共進会等において後援を行うとともに、最高位受賞者に会長賞を授与した。

また、ばんえい競馬の重賞・特別競走〔青雲賞、ナナカマド賞（BG3）、ばんえいオークス（BG1）、蛍の光賞〕の優勝馬の馬主に会長賞を授与した。

9 広報事業（法人管理事項を含む。）

乗用馬市場上場馬名簿等の馬事関連情報（当協会の各種規程、事業の公募及び実施要領等を含む。）を当協会ホームページに掲載したほか、「馬事協会だより」を4月1日（No. 18）及び12月1日（No. 19）に発行し、会員等に配付した。

第2 特別会計予算事業

1 在来馬種保存事業

我が国における在来馬種保存のため、次の事業を行うとともに、保存会（4団体）に対して令和4年度在来馬種保存事業に係る監査を実施した。

（1）在来馬種保存事業

各保存会に対し、在来馬種を保存・利活用するために必要な飼育管理費、保存活用研究費及び施設等整備費を助成した。

（2）絶滅危惧種対策事業

絶滅が危惧される3馬種（野間馬、対州馬、宮古馬）について、必要な施策（放牧場及び厩舎の補修等）を行った。

（3）在来馬種保護活動事業（寄付金活用対策）

日本在来馬の保護活動を目的とした寄付金（使途特定）を公益財団法人馬事文化財団から受け、木曾馬・野間馬・対州馬の飼養管理の改善等に必要な飼養管理器具・機材の整備及び仮設放牧柵の設置に活用した。

2 馬受精卵移植技術の実用化推進事業

我が国における乗用馬への受精卵移植技術の実用化を図るため、次の事業を行った。

(1) 事業推進委員会の開催

学識経験者等からなる事業推進委員会（4月14日：WEB会議）を開催し、令和4年度の実施状況を報告するとともに、事業実施における課題及び実施方法等について検討を行った。

(2) 受精卵移植技術の実用化事業

受精卵移植及び採卵のために必要な薬品等を購入するとともに、一般社団法人遠野市畜産振興公社において、生精液を活用してドナー2頭に人工授精を実施し、授精卵1個を回収し、レシピエント1頭に受精卵を移植した。

< 法人管理事項 >

第1 会議の開催等

当協会の事業運営について審議・協議するため、総会、理事会を開催した。

1 総会

第76回定時総会（6月12日：馬事畜産会館2階会議室）

議案第1号 令和4年度収支計算書（資金ベース）及び財務諸表等（貸借対照表、正味財産増減計算書、貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書並びに財産目録）の承認に関する件

議案第2号 公益社団法人日本馬事協会定款第7条の経費の負担に関する件

議案第3号 理事及び監事の報酬等の総額に関する件

議案第4号 役員（理事及び監事）の補欠選任に関する件

報告第1号 令和4年度事業報告書について

報告第2号 令和4年度監査報告について

報告第3号 令和5年度事業計画書、収支予算書（資金ベース及び正味財産増減予算書）並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類について

報告第4号 新たな会員の入会について

2 理事会

(1) 第1回理事会（5月22日：馬事畜産会館2階会議室）

第1号議案 令和4年度事業報告書の承認に関する件

第2号議案 令和4年度収支計算書（資金ベース）及び財務諸表等（貸借対照表、正味財産増減計算書、貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書並びに財産目録）の承認に関する件

第3号議案 役員（理事及び監事）の補欠選任に関する件

第4号議案 新たな入会希望者（団体会員）の入会に関する件

第5号議案 総会に附議すべき事項の決定に関する件

報告第1号 令和4年度監査報告について

報告第2号 会長及び専務理事の職務の執行状況の報告について

(2) 第2回理事会（6月12日：馬事畜産会館2階会議室）

第1号議案 副会長の選定に関する件

第2号議案 公益社団法人日本馬事協会定款第7条の経費の負担（団体会員の会費）に関する件

(3) 第3回理事会（3月8日：馬事畜産会館2階会議室）

第1号議案 令和6年度事業計画書、収支予算書（資金ベース及び正味財産増減予算書）並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認について

- 第2号議案 総会の招集及び総会に附議すべき事項の決定について
- 第3号議案 総会に附議すべき事項の内容の承認について
 - 議案第1号 公益社団法人日本馬事協会定款第7条の経費の負担(会費)について
 - 議案第2号 理事及び監事の報酬等の総額について
- 第4号議案 常勤役員の本俸について
- 第5号議案 顧問の委嘱について
- 第6号議案 公益社団法人日本馬事協会組織規程の一部改正について
- 第7号議案 公益社団法人日本馬事協会職員給与規程の一部改正について
- 第8号議案 公益社団法人日本馬事協会旅費規程の一部改正について
- 第9号議案 公益社団法人日本馬事協会育児休業等に関する規程の制定について
- 第10号議案 公益社団法人日本馬事協会介護休業等に関する規程の制定について
- 第11号議案 新たな入会希望者（個人会員及び個人賛助会員）の入会について
- 報告第1号 会長及び専務理事の職務の執行状況について（4月～2月）
- 報告第2号 公益社団法人日本馬事協会登録規程事務細則の一部改正について

3 監事監査

監事監査（5月17日：日本馬事協会会議室）

4 監査の受検

地方競馬全国協会

令和4年度畜産振興補助事業等に係る監査（9月26日～27日：日本馬事協会会議室）

第2 その他

1 会員の状況（令和6年3月末現在）

団体会員 70団体（入会1団体）

個人会員 24名（入会1名）

賛助会員 4団体及び6名（個人入会1名）

2 役職員の異動

(1) 役員

ア 6月12日

退任理事 伊藤克己

選任理事 小島 薫

退任監事 岩元正文

選任監事 茂木秀仁

イ 7月14日

退任理事 若園則明

(2) 職員等

ア 4月1日

再雇用 村山好子（常勤嘱託）

イ 3月31日

総務部長を解く 金内一弘（地方競馬全国協会からの派遣解除）

※ 令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。